

# 寒氣身を刺す

(昭和四十二年寮歌)

岡田雄三君 作歌  
森田弘彦君 作曲

一

寒氣かんき身をみ刺さす北国きたくにの  
永遠とわに名なを覇はす恵迪寮けいてきりょう  
よんひやくやじん つど  
四百野人の集いしに  
我等われらが理想ロマン何時いつの日か  
成さなざらむとぞ意氣いき高たかし

二

窈窕ようちょう多し札幌さつぽろに  
弊衣へい破帽はぼうの身みなれども  
一度歌ひとたわば蜚声ばんせいの  
遠く手稻ていねに木霊こだまして  
嗚呼誰あだれか知しる吾わが野心やしん

三

燃ゆる紅くれなゐ原始林げんしりん  
尽つきぬ想おもいを酒杯さかずきに  
酔よえば肩取かたとり乱舞らんぶする  
吾等われらが行先ゆくてに光明ひかりあり  
樂たのしからずや此この饗宴うたげ

四

蒼空そうくうの下佇もとたたずみて  
木この葉身はみに降ふる秋あきの日ひに  
仮たといこの身みは一介いっかいの  
卑いやしきものと知しるとても  
吾わが野望やぼうは永遠えいえんに